

提出された意見の概要及びこれに対する本市の考え方

No.	意見の概要	本市の考え方
1 施設の内容に対する意見（68件）		
(1) 施設の規模について		
①	新球技場の規模は、2万人収容可能なものや、国際試合ができる規模にするべきだと思う。	<p>主として毎年一定の試合数が開催されるJリーグ（サッカー）やトップリーグ（ラグビー）に対応することを基本とし、スポーツを通して諸外国との交流の場ともなるよう、施設規模を検討してきましたが、工期やコスト縮減策も踏まえ、まずは陸上部において事業費を抑えたJ1基準の1.5万人規模の拡張可能型スタジアムとして、事業化を目指すこととしました。</p> <p>将来的には、海上部への観客席の増設により、2万人規模への拡張が可能な作りとしたいと考えており、PFI事業者の公募・選定にあたり、提案を求めることを検討します。</p>
②	将来を見据え、観客席はいつでも増設できる設計にする、魅力的なバックスタンドとするなど考慮してほしい。	
(2) 施設内容について		
①	サッカーだけでなく、野球や陸上もできる施設としてほしい。	<p>兼用施設の場合、多種目に対応でき、稼働率が上がりますが、野球とサッカーは、グラウンドの形や大きさが違うため、観客とグラウンドとの距離感や客席の向きに違いがあり、種目によっては見づらくなります。それに対応するためには、例えば札幌ドームのように施設規模・設備が大型化・複雑化し、建設費や維持管理費が高額になります。</p> <p>今回の建設候補地では敷地面積に制約もあることから、サッカー・ラグビーなどの専用球技場としています。</p>
②	自家用車やバスの駐車場を確保するべきではないか。	<p>建設候補地は交通結節点である小倉駅新幹線口の近くであり、環境負荷軽減の観点から、新球技場へは公共交通でのご来場いただくことを基本としています。観戦者の車については、小倉都心部における既存の駐車場を活用していただく考えです。</p>
③	交通渋滞対策や、少し離れたところからのシャトルバスの運行など検討してほしい。	<p>交通渋滞対策については、地区内に多量の通過交通が発生しないよう、広報活動やわかりやすい案内などについて検討をしているところです。</p> <p>シャトルバスの運行については、今後、その必要性について検討します。</p>
④	新球技場は1万5千人規模なので、横浜市のニッパツ三ツ沢球技場や、栃木県の栃木グリーンスタジアム、NACK5スタジアム大宮を参考にしているかどうか。	<p>これまで、事業の検討を行う中で、事例調査を実施し、コンセプトなど計画策定に反映をしてきました。</p> <p>今後も、積極的に他スタジアムの好事例を取り入れ、市のシンボル施設として、市民が誇れる魅力ある施設となることを目指して検討を進めていきます。</p>
⑤	サッカー文化が根づいている欧州のスタジアムを研究するなど、創意工夫で何度も来なくなる素晴らしいスタジアムとしてほしい。	

⑥:ピッチとスタンドの距離を近くしてほしい。	
⑦:観戦環境を整えるべく、雨対策を始め、キッズスペース、授乳室やオムツ替えシートも完備してほしい。またトイレも多く設置してほしい。	<p>コンセプトの一つに「夢と感動を生み出す“ダイナミック”スタジアム」を掲げ、ピッチとスタンドの近接による躍動感・臨場感の創出や、スタンドへの屋根の設置による快適な観戦環境の整備、ホスピタリティの充実などについて配慮することとしています。いただいたご意見については、PFI事業者公募の際、参考にさせていただきたいと考えています。</p>
⑧:子どもたちも楽しめる施設としてほしい。屋外施設として、子ども用の遊具などを設置してほしい	
⑨:スポーツジムを設置してほしい	
⑩:施設内容について、プレーヤー、観客の意見を十分に聴いてほしい	<p>スタンド・コンコース・諸室などの市民や民間事業者への貸し出しといった活用についても積極的に取り組んでいきたいと考えており、いただいたご意見については、PFI事業者公募の際、参考にさせていただきたいと考えています。</p> <p>新球技場の計画を進める基本姿勢としては、「市民の意見を聴き、市民理解を深めることが重要である」という考えに基づき、丁寧に説明や意見交換を続けてきました。今後も、事業進捗の段階に応じて、説明内容の充実を図りながら、丁寧な説明に継続して取り組んでいきたいと考えています。また、ギラヴァンツ北九州、Jリーグ、ラグビー協会等の意見も参考にしながら検討を進めています。</p>
⑪:コンサートのための機能は不要。スポーツ施設に特化した機能にしてほしい	<p>コンセプトの一つとして、「みんながつどい、にぎわいを生む”海ちか・街なか”スタジアム」を掲げており、周辺施設や近隣のまちづくり団体・商業団体などとの連携などにより、小倉都心部を一体とした街のにぎわいづくりや回遊性の向上に取り組んでいくこととしています。コンサートの開催等は、試合開催日以外の施設の活用方法として取り組む予定です。</p>
(3) 防災機能について	
①:東海沖地震など大規模災害に備えた施設、備蓄施設として北九州の拠点とするべきである。	<p>災害時に、既存の市周辺施設・防災岸壁・ヘリポート・病院・ホテル等と連携し、避難場所や救援物資の保管倉庫など、災害時の防災施設として活用することとしています。</p>
②:新球技場は海の側にあるため、地震が起きた際のことを考えるべきである。	<p>津波・地震対策については、地域防災計画や関係法令を遵守した安全な施設計画とします。</p>

2 施設利用に対する意見（45件）

(1) 利用方法について

<p>① 駅の近くという利点を活かして、子どもが芝を楽しんだり、市民が仕事帰りにスポーツができたり、また芝生の中でキャンプや、野外コンサートが実施できるような施設にしてほしい。</p>	<p>コンセプトの一つとして、「みんながつどい、にぎわいを生む”海ちか・街なか”スタジアム」を掲げており、周辺施設や近隣のまちづくり団体・商業団体などとの連携などにより、小倉都心部を一体とした街のにぎわいづくりや回遊性の向上に取り組んでいくこととしています。</p>
<p>② スポーツ大会や、その他のイベントが誘致できるような民間団体を設営し、各種大会を積極的に誘致するべきである。また、一般市民がフルに活用できるようにし、平日昼間の利用度を増やし、休館日を極力減らすようにすること。</p>	<p>また、PFI事業者にも、周辺施設などとの連携によるにぎわい創出についての提案を求めることを検討しています。</p>
<p>③ イベント等ソフト面を工夫してほしい。</p>	<p>さらに、試合開催日以外の施設の活用については、グラウンドゴルフや幼児の芝生体験などの市民利用イベントに加え、コンサートの開催や、スタンド・コンコース・諸室などの市民や民間事業者への貸し出しといった活用についても取り組む予定です。</p>
<p>④ ギラヴァンツのためだけの施設とならないよう、高齢者のゲートボールやグラウンドゴルフにも施設を開放してほしい。</p>	<p>新球技場は、プロの試合の開催だけでなく、学生・社会人などのサッカー・ラグビー県市大会決勝戦レベルの試合や、グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験などの市民利用もできる施設としての活用を図ります。</p>
<p>⑤ ギラヴァンツが勝たなくては意味がない。新球技場とギラヴァンツをセットにして考えることは困難であるため、別のチームのホームグラウンドとしてもよいのではないか。</p>	<p>本市初のプロスポーツチーム「ギラヴァンツ北九州」の活躍は、まちのにぎわいの創出や、都市ブランドの向上といった面に加え、ふるさとを愛する気持ちを高揚させ、市民を一つにするという誇りや一体感の醸成につながるものです。</p> <p>本市はギラヴァンツ北九州のホームタウンとして、その活躍の舞台となる新球技場の整備を検討しているものです。</p>
<p>⑥ ラグビーとの併用とされているが、ラグビーは天然芝を傷めるためサッカー専用とすべきだ。</p>	<p>新球技場は、ラグビーでの使用も想定して検討を進めています。ラグビーの試合により、その他の利用に影響を与えないよう、芝生を良好に保つ維持管理手法について、今後検討していきます。</p>

(2) 集客について

<p>① リピーターとして定着させるためには、スタッフの接客対応や警備体制を充実させ、安全・快適な観戦環境を提供するべきだ。</p>	<p>施設の管理運営は民間のPFI事業者が行う予定であり、事業者の公募・選定にあたっては、スタッフの接客対応や警備体制の充実など、安全・快適な観戦環境の提供についても提案を求めることを検討します。</p>
<p>② 小倉駅周辺には西日本総合展示場など大きなイベントスペースがあるので、サッカー以外のイベントなどでの利用が多く見込めるのか心配である。</p>	<p>西日本総合展示場が屋内施設であるのに対し、新球技場は1万5千席以上の大規模屋外施設であり、施設の特性が異なるため、それぞれの特性に応じたイベントが実施できると考えています。例えば、新球技場ではその特性を活かした利用（グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験、大規模野外コンサート等）のイベント実施を検討しています。</p> <p>また、西日本総合展示場などの周辺施設とも連携して、街のにぎわいの創出を図っていきます。</p>

(3) 利用予測について

① 現在J2においても低い平均観客数であるギラヴァンツが、2.13倍の7,000人も観客増員効果があるとは思えない。	新球技場の完成後は、現在のホームスタジアムである本城陸上競技場の課題点である交通アクセスや観戦環境が大幅に改善されることにより、観客者数の増加が見込め、1試合平均7,000人の観客者数を目指しています。この数字は、財団法人九州経済調査協会の試算を活用し、2012年シーズンのギラヴァンツ北九州の観客動員数(3,346人)に、他スタジアムの改善事例における増員効果倍率(2.13)を掛けて、算出したものです。
② 球技場のグレードが高ければハイレベルなスポーツが観戦できるとは限らないため、市全域から観戦者が集まるか気がかりである。	
③ 建設当初は、珍しさもあって盛況かもしれないが、それが継続するか分からない。	
④ ギラヴァンツ北九州の観客動員数は、現在2,3千人ぐらいであり、将来の観客動員数の増加は望めないと思う。	
⑤ 各種公共施設を建設する場合の稼働率や利用者数などを行政は高く見積もっていることが多い	

3 建設候補地に対する意見（50件）

(1) 建設候補地について

①	新球技場の建設候補地は、北九州空港に近い下曾根周辺やスペースワールド、門司競輪場跡地等、他の候補地とする方がよかったと思う。	新球技場の建設候補地については、「交通アクセス」や「周辺土地利用との関連」、「まちなぎわいづくりや市全体の活性化」などの観点から、都市計画・建築、スポーツ興行・競技、にぎわいづくり等の専門家により構成された「北九州市新球技場整備アドバイザー会議」からいただいた助言も参考にし、調査・検討を行ってきました。
②	建設候補地は、交通の便が良いため、応援に行きやすいと思う。	複数の候補地の中から、「市内各所・全国各都市からの交通結節点となる小倉駅に近接し、特に交通アクセスに優れる」ことや「飲食、宿泊や駐車場など、周辺の都心機能と連携が図れ、まちなぎわいづくりや市全体の活性化が期待できる」などの理由により、「小倉駅新幹線口地区」を選定しました。
③	新球技場の建設候補地は交通アクセスの良い場所であるが、海のすぐそばであり、塩害対策やメンテナンス費用等が高くなるのではないかと	施設を維持していく上で必要な塩害対策を施すとともに、メンテナンス費用が抑えられる効率的な維持管理を検討します。
④	建設候補地は、海沿いであることから、風が強いことが多く、サッカーの環境に影響ないか気になる。	屋外球技場は、競技に自然の影響があることを前提とした施設であり、この点も含めて新球技場の魅力に繋がるものと考えています。観客への風の影響については、スタンドの形状などによる低減の工夫を、PFI事業者にて提案として求めることを検討します。
⑤	小倉駅北口には新球技場ではなく、もっと汎用性の高いイベントスペース等を建設してはどうか。	小倉駅新幹線口地区には、すでに西日本総合展示場や国際会議場等のコンベンション施設や、あさの汐風公園等があり、新球技場はこれらの周辺施設との連携により、街のにぎわい創出を図っていきます。

(2) 本城陸上競技場について

①	本城陸上競技場の改修で十分である。	<p>現在ギラヴァンツ北九州がホームスタジアムとして使用している本城陸上競技場は、J1基準の客席数15,000席以上を満たしていないこと以外にも、Jリーグ事務局から、施設の改善について様々な指摘がされています（常設の入場券売場や物品販売所の不備、記者席や放送ブース、カメラ設置スペース、観客用トイレの不足、審判更衣室やドーピングコントロール室が場外にあり安全面で不適當など）。</p> <p>必須ではないものの、原則として具備しなければならない設備として、メインスタンドを覆う屋根や電光掲示板の不備、室内練習場の不足、来賓席や選手更衣室の不足といった課題もあります。</p> <p>さらに、Jリーグの試合を開催するにあたって、最寄り駅からのアクセスが悪く、近くに駐車場が十分確保できないこと、第一種低層住居専用地域に立地しており、周辺の住民や店舗から、試合中の音や駐車マナーなどに対して苦情が寄せられていることといった課題もあります。</p> <p>また、本城陸上競技場は本市唯一の第1種公認陸上競技場であることから、陸上など他の競技大会などとの利用調整に苦慮している状況です。</p> <p>このように多くの課題があることから、本城陸上競技場の改修・建替えは、現実的には困難だと判断しています。</p>
---	-------------------	--

<p>②:本城陸上競技場の利用調整を改善してほしい。</p>	<p>本城陸上競技場におけるJリーグ(J2)公式戦は、現在、年間を通して21試合であり、事前練習や、前日の準備作業を含めると、週末の土日を占有利用することが多く、本城陸上競技場における他競技大会等の開催・誘致に支障が生じている状況です。新球技場が整備されることで、利用調整について大幅に改善され、これまで開催できなかった陸上大会等の誘致を図ることが可能となります。</p>
<p>③:本城陸上競技場周辺の商業上のメリットや住民の楽しみが失われないよう、新球技場にギラヴァンツの試合が移行した後のフォローをしてほしい。</p>	
<p>④:サッカーファンはマナーが悪く、周辺住民は迷惑している。 早く、新球技場に移ってほしい</p>	<p>本城陸上競技場におけるJリーグの試合開催時には、交通渋滞や応援の歓声等で、付近の皆様にご迷惑をおかけしています。試合の運営者であるクラブにもご意見を伝えます。</p>

4 整備等に係る費用に対する意見（38件）

(1) 整備費について

①	新球技場は野球もできる施設とした後、現在の北九州市民球場を解体し、その跡地を売却した費用で整備費を賄うべきである。	兼用施設の場合、多種目に対応でき、稼働率が上がりますが、野球とサッカーは、グラウンドの形や大きさが違うため、観客とグラウンドとの距離感や客席の向きに違いがあり、種目によっては見づらくなります。それに対応するためには、例えば札幌ドームのように施設規模・設備が大型化・複雑化し、建設費や維持管理費が高額になります。 今回の建設候補地では敷地面積に制約もあることから、サッカー・ラグビーなどの専用球技場としています。 なお、現在の北九州市民球場は引き続き野球場として活用していく予定です。
②	事業費約89億円のうち約50億円は市債で賄うとのことだが、何年で償還する予定か。また、財源はどのようなのか。	市債の償還期間は30年間、償還の財源は税収等の一般財源を予定しています。
③	市民や企業から寄付金を募るなどして、極力税金を使わない方法で建設してほしい。	建設費（約89億円）については、スポーツ振興くじ（totoくじ）助成金（30億円）と市債の活用を予定しています。なお、市負担額の軽減や市民の愛着の醸成を図るため、ネーム入りプレート募金などの寄付について検討する予定です。
④	本体建設費79億円の費用は全てPFI事業者が負担するのか、市がいくら負担するのか分からない。	本体建設費の費用は、市が負担します。財源の内訳は、スポーツ振興くじ（totoくじ）助成金（30億円）と市債の活用を予定しています。
⑤	追加予算が出ないようにしてほしい。	予算の範囲内で建設し、追加投資が出ないように努めます。社会経済情勢の変化や市民要望により諸々の対応が必要となった場合、その都度検討していきます。

(2) 採算性について

①	新球技場は、施設から得られる収入だけで採算が取れるのか。	新球技場は、美術館や博物館、音楽ホール、市民球場、総合体育館など同様の公共施設であり、施設単体の収入によって採算を図る性格の施設ではないと考えています。 なお、他都市の同規模事例等から算定すると、管理運営コスト（借地料を含む）は概ね年間1.5億円が必要となる見込みですが、コスト削減の工夫やネーミングライツ導入による収入の確保によって、負担の軽減に努めていく考えです。
---	------------------------------	---

(3) 維持管理費について

①	借地料と維持管理費で年間1億5千万円とのことだが、財源はどのようなのか。	財源は税収等の一般財源と施設の使用料収入を予定していますが、コスト削減の工夫やネーミングライツ導入による収入の確保によって、負担の軽減に努めていきます。
②	教育や福祉に影響が出ないよう、市の予算を抑える維持管理をするべきである。	事業手法は、民間の経営能力や技術能力などが十分に発揮でき、市の財政負担の軽減やサービス水準の向上など、効率的、効果的に本事業の目的を達成することが期待できることとして、PFI手法（BTO方式）を想定しています。

<p>③ 天然芝の管理には、多大な費用と人員を要すると思われるので、本事業の成功には維持管理のための費用を確保することが重要である。</p>	<p>管理運営コスト(借地料を含む)は、類似規模施設を参考に年間約1.5億円を見込んでおり、その中で芝生の維持管理も行うこととしています。PFI事業者の公募・選定にあたっては、最適かつ効率的な芝生の管理方法についても提案を求めることを検討します。</p>
<p>(4)整備手法について</p>	
<p>① PFI事業で実施するなら、民間事業者から斬新かつ魅力ある提案が出されるような工夫をお願いしたい。</p>	<p>PFI事業者の募集にあたっては、より魅力的な事業となることを目指し、事業者に求める要件は必要最小限にとどめ、施設の多面的な活用や、周辺施設との連携による街のにぎわいづくりといった観点から、出来る限り事業に自由度を持たせ、独創的な管理運営への意欲が高まる仕組みを検討します。</p>
<p>② 武雄市の図書館のように、新球技場が魅力ある施設となるよう、事業の設定やPFI事業者の選定は十分検討してほしい。</p>	

5 整備の時期に対する意見（62件）

(1) 整備の時期について

<p>① 早期着工、早期完成を希望する。</p>	<p>早期建設を希望する市民の声があることは認識しています。今後、市民や市議会の意見を踏まえた上で、着実に計画を進めていきます。</p>
<p>② ギラヴァンツ北九州がもっと強くなってからでもいいのではないか。</p>	<p>平成20年3月に、北九州市スポーツ振興審議会において、「市民に夢と感動を与える『見るスポーツ』の機会提供を行うため、スポーツイベント・プロスポーツの誘致が必要であり、その受け皿となる高規格・大規模な体育施設が必要である。特にニューウェーブ北九州（現ギラヴァンツ北九州）が、Jリーグ昇格の可能性が高まりつつあることを考慮し、Jリーグ規格を満たした球技場については、優先的に整備すべき」との提言をいただいています。</p> <p>その後、ニューウェーブ北九州が平成21年12月にJFLからJリーグへ昇格を果たし、本市初のプロスポーツチーム「ギラヴァンツ北九州」が誕生しました。2010年（平成22年）シーズンから本城陸上競技場（観客席数10,202席）を本拠地とし、J2の舞台で活躍しています。</p> <p>2011年シーズンはリーグ8位、2012年シーズンはリーグ9位と躍進し、今後、J1昇格へのプレーオフ制度の参加条件6位以内に入る可能性も十分にあります。</p> <p>ただし、新球技場が建設できず、ギラヴァンツ北九州が本城陸上競技場を本拠地として使い続ける場合、成績等の条件をクリアしたとしても、J1基準を満たす施設（観客席数15,000席以上など）がその時点で存在していなければ、J1昇格が認められないことになっています。</p> <p>このようなことから、J1基準を満たす新球技場について、平成28年度の完成を目指し、検討を進めているところです。</p>

6 ギラヴァンツ北九州に対する意見（63件）

(1) ギラヴァンツ北九州について

<p>① チームに対して年間いくら補助しているのか、市政だよりなどで市民に知らせるべきである。</p>	<p>北九州という名のついたプロスポーツチームの活躍は、まちのにぎわいの創出やふるさとを愛する気持ちを高揚させ、市民の一体感の醸成に繋がる重要なものと考えています。そのため、市はギラヴァンツ北九州に対する支援としてホームゲーム開催経費や遠征費を対象として、年間6千万円の補助金を交付しています。</p>
<p>② 今後どのようにして、ギラヴァンツ北九州に対しての支援を行っていくのかの具体策を提示してほしい。</p>	<p>他の主要施策と同様、毎年予算に関して公開される「当初予算概要及び主要施策」などに掲載することにより、周知を行っています。</p>
<p>③ チームは現在債務超過であり、Jリーグクラブライセンス制度の財務基準を満たすことはできるのか。</p>	<p>Jリーグクラブライセンス制度の財務基準の適用が開始される2016年度については、 ① 2012～2014年度の3年間を対象として、3期連続で当期純損失を計上。 ② 2014年度決算で純資産がマイナス(債務超過)のいずれかの場合、Jリーグのライセンスが交付されないこととなります。 これらの基準について、 「① 2011年度は赤字決算でしたが、2012年度決算では広告料収入が前年度比約40%増加したことなどにより黒字となっています。これにより、2016年度のクラブライセンス交付の審査に対して、「2014年度決算時点で過去3期連続での純損失(赤字)でない」という基準はクリアしています。 ② 2012年度末時点における債務超過については、今後、単年度黒字を継続するとともに、小口株主等による資本の増強を図ることにより、今後2年間で債務超過を解消する予定です。」 とクラブから聞いています。</p>
<p>④ ギラヴァンツ北九州の経営状況が不安、クラブの体質を改善すべき</p>	<p>ギラヴァンツ北九州は、2010年のJリーグ参入と同時に、一貫した指導方針で地元出身のプロサッカー選手を育成するギラヴァンツ北九州アカデミー(ユース・ジュニアユースチーム)を設立しています。 設立の目的は「サッカーを通しての人間形成」、「地域の中からプロで活躍できる選手を育成し、トップチームに供給すること」、「日本代表や海外チームなどで世界を舞台に活躍できる選手を育成すること」であり、地域の人々に愛され、子どもたちに夢を与える「地域育成型クラブ」をめざし、今後も指導体制を充実させるとともに拠点の整備等を着実に進め、若手育成組織の強化を図るとしています。</p>
<p>⑤ 強いチームとなるため、クラブ自体も、下部組織を含めた選手育成方針、J1昇格に向けたチームづくりやビジョンを明らかにし、目標達成に向けて努力することが求められる。</p>	<p>育成方針、ビジョンについてのご意見はクラブにお伝えします。</p>

<p>⑥ クラブに、サッカーに興味・関心をもってもらえるよう、ホームタウン活動や、月1回の観戦講座の実施等にも取り組んでほしい。</p>	<p>「ギラヴァンツ北九州に対する市民の盛り上がり」について、ギラヴァンツが今後、さらに市民チームとして愛され、応援してもらうためには、いい成績をあげることがなによりです。</p>
<p>⑦ ギラヴァンツ北九州は、市民、行政、地元企業がしっかりと応援して、J1昇格に向けた活動を盛り上げていくことが大切だと思う。</p>	<p>一方、市民に身近に触れ合うホームタウン活動も大切であり、チームは小学校訪問や、サッカー教室、地域のイベントへの参加などにも積極的に取り組んでいるところです。</p>
<p>⑧ ギラヴァンツ北九州は、全ての北九州市民が一つになって応援されるべきものだと思う。</p>	<p>市もチームと連携し、まずは一度実際にスタジアムで観て「プロの迫力」や「応援の一体感」を感じていただく観戦のきっかけづくりとなる事業を、市民機運の盛り上がりやサポーターの拡大につなげることを目的として実施しています。</p>
<p>⑨ 北九州市にプロのサッカーチームがある事はとても幸せなことだと思う。もっと応援して北九州市を有名にしていきたい。</p>	<p>また、今年度から市民センター等でサッカーのルールや観戦ポイントを選手OBが解説する「観戦講座」を実施する予定です。</p>
<p>⑩ 多くの市民の納得を得られるような成績を残し、サポーターや観客数を増加させる必要がある。</p>	<p>このような活動を通じ、多くの市民がギラヴァンツ北九州を「わが街のチーム」として誇りに感じ、心を一つに応援してもらえるよう、地道かつ継続的に取り組んでまいります。</p>
<p>⑪ 毎年の観客数が減少しており、盛り上がってるとは言いがたい状況である。</p>	
<p>⑫ 新球技場を建設しないと、J1に昇格できないため、選手もモチベーションが上がらないし、良い選手も来てくれないと思う。</p>	<p>平成20年3月に、北九州市スポーツ振興審議会において、「市民に夢と感動を与える『見るスポーツ』の機会提供を行うため、スポーツイベント・プロスポーツの誘致が必要であり、その受け皿となる高規格・大規模な体育施設が必要である。特にニューウェーブ北九州（現ギラヴァンツ北九州）が、Jリーグ昇格の可能性が高まりつつあることを考慮し、Jリーグ規格を満たした球技場については、優先的に整備すべき」との提言をいただいています。</p>
<p>⑬ プロスポーツチームを作った責任を全うするためにも、建設は必要である。</p>	<p>その後、ニューウェーブ北九州が平成21年12月にJFLからJリーグへ昇格を果たし、本市初のプロスポーツチーム「ギラヴァンツ北九州」が誕生しました。2010年(平成22年)シーズンから本城陸上競技場(観客席数10,202席)を本拠地とし、J2の舞台で活躍しています。</p>
<p>⑭ 仮に球技場がなくても、選手の自覚と、それに呼応する応援体制で、力は付いていくと思う。</p>	<p>2011年シーズンはリーグ8位、2012年シーズンはリーグ9位と躍進し、今後、J1昇格へのプレーオフ制度の参加条件6位以内に入る可能性も十分にあります。</p>
<p></p>	<p>ただし、新球技場が建設できず、ギラヴァンツ北九州が本城陸上競技場を本拠地として使い続ける場合、成績等の条件をクリアしたとしても、J1基準を満たす施設(観客席数15,000席以上など)がその時点で存在していなければ、J1昇格が認められないことになっています。</p>
<p></p>	<p>このようなことから、J1基準を満たす新球技場について、平成28年度の完成を目指し、検討を進めているところです。</p>

7 北九州市の活性化に対する意見（102件）

(1) 北九州市のイメージアップ、一体感の醸成について

<p>① 「北九州」の一体感を強く内外に発信していけるよう、市の「新しい象徴」としての新スタジアム建設に期待する。</p>	<p>新球技場は、サッカーやラグビーなどのレベルの高い試合やコンサートなどの開催を通じて、市民に夢と感動を与えるとともに、人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出に寄与するものと考えています。</p> <p>また、新球技場がホームスタジアムとなる本市初のプロスポーツチーム、ギラヴァンツ北九州の活躍は、まちのにぎわいの創出や、都市ブランドの向上といった面に加え、ふるさとを愛する気持ちを高揚させ、市民が気持ちを一つにするという誇りや一体感の醸成につながるものと考えています。</p> <p>さらには、この新球技場を、学生や子どもたちのサッカーやラグビー大会の会場として活用することで、将来を担う子どもたちの夢やあこがれの施設として、大変意義があるものと考えています。</p> <p>新球技場が、本市のシンボル施設として市民が誇れる魅力ある施設となるよう、今後も検討してまいります。</p>
<p>② サッカーを通じ、より郷土愛を深めるためにも新球技場は必要だと思う。</p>	
<p>③ 将来に渡って、市民が平和で楽しく生活を過ごせるような場所として必要である。</p>	
<p>④ 建設する場合は、地域の魅力を活かした、北九州市のシンボルとなる、環境都市北九州に相応しい、世界に誇れるスタジアムを造ってほしい。</p>	
<p>⑤ 子どもたちの夢や目標のため、多くの子どもたちが取り組んでいるスポーツは大事に育てていくべきだと思うし、子どもたちが憧れる球技場は必要だと思う。</p>	
<p>⑥ 新球技場を北九州に建設することは、若者の持つ「世界に向かうパワー」を再び沸騰させてくれる事になるし、「夢と感動を与える街づくり」になると思う。</p>	
<p>⑦ 新球技場の建設は、将来に渡ってこの北九州市を存続させていくための施策の一つとして、将来の活性化に向けての投資である。市民の感動、一体感、心を寄せる存在といったものはお金では表せない財産である。</p>	
<p>⑧ 「高水準の天然芝を備えた、市内唯一の球技専用施設」であることを前面に押し出し、その希少性を市民が実感できる仕掛けの工夫をするなど、芝生の溢れる街づくりをスタジアムが牽引してほしい。</p>	

(2)まちのにぎわいづくりについて

① スタジアムだけで観光が、また商店街が活性化するとは思えない。	<p>新球場は、単にスポーツ観戦や競技の場だけでなく、まちなかでの買い物や飲食などのきっかけとなるなど、まちの活力の向上に貢献できる施設としたいと考えています。</p> <p>新球場整備に伴うまちづくり効果の発現については、行政内の関連部署や、まちづくり団体、商業団体などと協議を行い、小倉駅を中心とする小倉都心部を一体とした街のにぎわいづくりや回遊性の向上に取り組んでいきたいと考えています。また、PFI事業者にも、周辺施設などとの連携によるにぎわい創出についての提案を求めたいと考えています。</p> <p>また、まちづくり団体や商業団体などとの活発かつ気軽な議論の手段として、最新のソーシャルネットワークワーキングサービス等の活用についても検討します。</p>
② スタジアム周辺には一定の経済効果が見込まれる。	
③ 周辺施設や商店街、NPO法人などの協力・連携した取り組みについて、もっと具体的に議論すべきである。	
④ 市内の商店街、ショッピングモールの誘致など民間の知恵を引き出してほしい。	
⑤ 新球場を効率利用し、市が活性化するため、既存の商業施設等の中で連携できるようインフラ整備を行うべきである。	
⑥ 新球場は、イベントだけでなく、イベント外でも名所として存在すれば、より小倉駅の北側ゾーンも人の往来が期待できる。	
⑦ 北九州の人口が流入増に転換されるような、にぎわいを創出することが不可欠である。	
⑧ もっと北九州市を盛り上げるためには、スポーツが良い。	

8 整備事業全体に対する意見（65件）

(1) 事業の優先度について

<p>① 新球技場を建設するよりも、企業誘致や福祉関係施設の充実など、もっと市民のためになる事業に税金を使ってほしい。</p>	<p>予算(税金等)の用途については、必要性、有効性、緊急性などを総合的に判断して決定していきます。新球技場は50億円を超える公共事業であるため、公共事業評価システムに基づき、2度の事前評価に諮った後に、議会承認を得て、事業化予算が認められることとなります。</p>
<p>② 新球技場建設により、借金が増えるのではないかと、次世代の若い人たちに借金を残すべきではない。</p>	<p>市が道路、公園、学校や保育所などの公共施設を建設する場合の財源として、補助金等の他に、通常、市債(市の借金)を発行しています。公共施設はいったん建設するとその先数十年もの長い間使用するため、建設費用は現世代だけでなく、便益を受ける将来世代にも負担してもらうのが公平だと考えられているためです。このため、将来世代にも返済という形で公共施設を作る財源の一部を負担してもらい、世代を超えて負担を分かち合っています。(世代間の公平)</p>

(2) 大型公共事業の必要性について

<p>① メディアドームやAIM、コムシティ等の二の舞になる可能性がある。</p>	<p>新球技場は、美術館や博物館、音楽ホール、市民球場、総合体育館など同様の公共施設であり、施設単体の収入によって採算を図る性格の施設ではないと考えています。</p> <p>なお、他都市の同規模事例等から算定すると、管理運営コスト(借地料を含む)は概ね年間1.5億円が必要となる見込みですが、コスト縮減の工夫やネーミングライツ導入による収入の確保によって、負担の軽減に努めていく考えです。</p> <p>本市では、過去の経験を踏まえ、平成19年度から現在の公共事業評価システムの運用を行っています。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業評価の対象を100億円以上から10億円以上に拡大 ② 50億円以上の事業については、外部評価委員会で評価を実施 ③ 50億円以上のうち、市長が必要と認めた場合、基本設計等の予算要求前と実施設計等の予算要求前の2回、評価を実施 ④ 評価結果や市の対応方針案についてパブリックコメントを実施 <p>の4点について見直しを行いました。</p> <p>公共事業を実施する際は、こうした評価制度を活用するとともに、多くの市民の皆様説明し、意見を良く聞きながら、丁寧に進めています。</p>
---	--

9 その他（79件）

(1) 市民意見の把握について

① 新球技場建設のメリットについて、もっと市民へ説明すべきだと思う。	<p>新球技場の計画を進める基本姿勢としては、「市民の意見を聴き、市民理解を深めることが重要である」という考えに基づき、丁寧に説明や意見交換を続けてきました。</p> <p>平成22年11月に基本方針を発表後、市民への説明・意見交換会を開始し、平成25年1月末現在で、94団体・3,056人に対して説明を行い、説明会後に実施したアンケートでは、回答した1,795人の内、約76%が賛同の意向であるという結果を得ています。</p> <p>今後も、事業進捗の段階に応じて、説明内容の充実を図りながら、丁寧な説明に継続して取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、今後、事業の各節目において、市民に広く伝わる媒体を用いて、事業内容について、市民への情報発信を図っていきたいと考えています。</p>	
② 計画を知らない人もいるため、あらゆる層の市民に対して広報活動をもっとすべきだ。		
③ 市は、今後も新球技場整備事業についての情報を発信し、説明責任を果たしていくべきだ。		
④ 反対している方には丁寧な説明をお願いしたい。		
⑤ まだ建設可否についての議論は尽くされていないと思う。		
⑥ 3,000人以上の市民に意見を聴けば十分ではないか。		
⑦ 無作為に抽出した市民投票を実施すべきだ。		<p>今後も出前講演方式により、市民への説明と意見交換を継続することとしており、現時点で無作為に抽出した市民投票を実施する考えはありません。</p>
⑧ 説明会後に実施したアンケートの結果、約76%の賛同を得たとあるが、説明会では有利な情報しか提供していないのではないかと。また、反対者が多いと予想された団体には、アンケートを実施していないのではないかと。		<p>説明会では、可能な範囲で質疑応答や意見交換を行うこととしており、市からの一方通行の情報提供にならないように留意しています。また、供用開始後に発生する維持管理費などの財政負担についても説明を行っています。</p> <p>説明会後のアンケートは、対象を限定することなく、了解をいただいた団体について実施をしています。</p>

(2)新球技場以外の施設について		
①	<p>スポーツは多種あり、市民が気軽に使える施設でなければ、市が資金を提供するべきではない。</p>	<p>新球技場は、プロの試合の開催だけでなく、学生・社会人などのサッカー・ラグビー県市大会決勝戦レベルの試合や、グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験など市民も利用できる施設としての活用を図ります。</p>
②	<p>サッカー観戦にこれだけの投資を行う必要性について、説得力のある理由がなければならず、必ずしも観戦型のスポーツを優先する必要はないと思う。</p>	
③	<p>総合体育館、北九州市民球場等、既存施設の活用方法をまず考えるべきではないか</p>	<p>既存のスポーツ施設については、それぞれの設置目的、施設内容に応じた活用を行っており、現在不足しているサッカー・ラグビー等の専用球技場の整備が必要と考えています。</p>
④	<p>100万都市に見合うスポーツ公園を造るか、野球場を造る方がよいのではないか。</p>	<p>本市の本城公園は、ギラヴァンツ北九州市がホームスタジアムとして現在使用している陸上競技場のほか、球場や運動場を備え、多くの市民にご利用いただいています。特に陸上競技場は、本市唯一の第1種公認陸上競技場であることから、その特長を活かし、また市西部地域の拠点となる中核施設として、全国・西日本・九州規模の大会開催などの活用を図っていくこととしています。</p> <p>野球場については、ソフトバンクホークスの公式戦が開催されている北九州市民球場の他にも、軟式野球の全国大会を誘致するために必要な規格の野球場が7ヶ所あります。</p> <p>さらにバレーボールVリーグ等、各種の全国規模の大会が開催される総合体育館もあり、現在不足しているサッカー・ラグビー等の専用球技場の整備が必要と考えています。</p>
(3)その他		
①	<p>検討会議の構成員に一般市民を入れるなどすべきである。</p>	<p>公共事業評価に関する検討会議は、公共事業に関する専門的な見地からの意見を期待していることから、公共政策、金融、都市計画、環境などの分野に高い見識を有する専門家を選任しており、第三者の立場から様々なご意見をいただいているものです。</p>

<p>② 本事業による効果や、計画自体がまだ具体的ではない・分かりにくい。</p>	<p>新球技場は、プロの試合の開催だけでなく、学生・社会人などのサッカー・ラグビー県市大会決勝戦レベルの試合や、アメフト、グラウンドゴルフ、幼児の芝生体験など市民も利用できる施設としての活用も図るとともに、小倉駅に近いという立地特性を考えると、人が多く集まる新球技場は、単にスポーツ観戦や競技だけでなく、まちなかのにぎわいに貢献できる施設となるものであり、年間21万人の観戦者数と、年間約10.3億円の消費経済効果が見込めるものです。</p> <p>さらに、小倉駅新幹線口地区は、コンベンション施設等の国際交流機能を中心とした「交流都心」に位置付けられており、北九州市国際会議場や西日本総合展示場、あさの汐風公園など、周辺施設との連携によって、イベント開催や既存機能の活用など、魅力の増進を図ることが出来るものでもあります。</p> <p>計画については、今回、PFI事業を予定していません。PFI事業の特性として、市が今後策定する事業計画に、PFI事業者のノウハウを活かした提案が盛り込まれることで、より具体的な計画となっていく予定です。</p> <p>今後も、事業進捗の段階に応じて、説明内容の充実を図りながら、丁寧な説明に継続して取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>また、今後、事業の各節目において、市民に広く伝わる媒体を用いて、事業内容について、市民への情報発信を図っていきたいと考えています。</p>
<p>③ 行財政改革調査会の答申において、公共施設の面積の削減が答申されたようであるが、この答申を無視するのか。</p>	<p>行財政改革調査会で議論していただいている「公共施設のマネジメント」は、本市の公共施設全体について、全市的かつ長期的な視点でそのあり方を見直し、今後の整備・更新や管理に関する基本的な考え方を示すものです。</p> <p>その中で、「総量抑制が必要」との中間答申が出されていますが、今後、社会経済情勢の変化や様々な行政課題に持続的に対応していくためには、新たな施設整備等の新規投資を全く行わないことは現実的ではなく、今後は、「選択と集中」の考え方により、政策的な優先順位を付けた上で、必要な施設については着実に保全・整備をしつつ、全体として保有量を抑制していくことになると考えています。</p>
<p>④ 公共事業評価の仕組みが分かりにくい。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、改善できる点について今後検討していきます。</p>
<p>⑤ 地元企業に仕事が回るように配慮してほしい。</p>	<p>PFI事業者の参入意欲を喚起するため、参加しやすい資格要件や適正な評価基準の設定などにも留意して、事業スキームの構築に取り組んでいきたいと考えています。この中で、PFI事業者の公募・選定にあたっては、地元企業の雇用、資材調達等、地域への貢献を評価する項目を設定する等、地元企業への配慮についても検討していきます。</p>
<p>⑥ 新球技場整備事業に賛成する。 新球技場整備事業を楽しみにしている。</p>	<p>今後、市民や市議会の意見を踏まえた上で、着実に計画を進めていきます。</p>
<p>⑦ 新球技場整備事業に反対する。</p>	<p>新球技場の整備を進めるには、市民の皆様のご理解が不可欠であると考えています。今後も、事業進捗の段階に応じて、説明内容の充実を図りながら丁寧な説明に継続して取り組んでいきたいと考えています。</p>